

注目！在宅医療関連サービス 010

株式会社メディックプランニング

三好貴之

代表取締役



086-234-0086

medicplanning.com

岡山県岡山市北区天瀬南町7-11-2

ビジョン

「一つでも多くの良い介護施設を日本に残す」経営に苦しむ通所事業所向けの集客からマネジメントで学べる講座を開講。6ヶ月で稼働率と売上を20%上げる仕組みを作ります。

リハビリディサービスの質向上やリハビリテーションマネジメント加算への対応、さらには稼働率改善に悩む事業所は少なくありません。リハビリ強化型デイサービスの運営、現場と経営を熟知したコンサルティング、そして全国300を超える通所支援に携わる三好氏のキャリアと実践知を深掘りします。通所経営の要である集客・稼働率アップの方法から、誰もが支え合える地域づくりまで、リハビリの未来を見据えた取り組みをご紹介します(2025年11月取材)。

リハビリディサービスに導かれたキャリアパス

まず、三好さんが作業療法士を目指されたきっかけから教えていただけますか？

私が学生だった頃は、いわゆる就職氷河期、「ロスジェネ世代」でした。「手に職を」という風潮が強く、私自身も大学卒業後に民間企業へ就職するよりも、医療系の専門職に進みたいと考えていました。色々と調べる中でリハビリテーションに興味を持ち、専門学校なら3年で資格が取得できると知ったことがきっかけです。早く社会に出て自立したいという思いもあり、作業療法士の道を選び、1997年に資格を取得しました。



数ある医療職の中で、リハビリテーションに惹かれたのはなぜでしょうか？

当時はまだ男性看護師が少なく、臨床工学技士や放射線技師といった選択肢もありましたが、それらは検査業務が中心で、機械と向き合う時間が長いイメージがありました。私はもっと患者さんに直接触れ合い、密接に関わる仕事がしたいと考えていたので、リハビリ職が魅力的に映りました。

学生時代はどのような環境で学ばれたのですか？

私の母校は社会人入試制度があり、学生の年齢層も出身地も様々でした。当時はまだリハビリの養成校自体が少なかったこともあり、半分以上が社会人経験者でしたね。私は現役で入学しましたが、30代-半ばの方や、一度社会人を経験した20代の方など、多様な経歴を持つ仲間と学べたことは非常に刺激的で、とても楽しい3年間でした。

1997年から作業療法士としてのキャリアをスタートされますが、臨床現場で働く中でどのようなことを感じられましたか？

卒業後は病院に勤務し、作業療法士としてリハビリ業務に携わりました。しかし、当時はまだ介護保険制度がなく、病床機能も分化していなかったため、リハビリで身体機能が回復しても、自宅に帰れる環境が整っていない患者さんが多くいらっしゃいました。むしろ「良くなると退院させられてしまう」と

いう不安から、リハビリを拒否されることさえありました。この経験から、仕事の意義を見出すのが難しくなり、一度臨床の現場を離れる決意をしました。

そこから教員の道へ進まれたのですね。

はい。母校の先生に相談したところ、当時は教員のなり手が少なかったこともあり、「一度学校に戻つて、これからどうするか考えてみたらどうか」と声をかけていただき、教員として働くことになりました。そこから約10年間、教育現場に身を置くことになります。

教育現場での10年間は、三好さんにとってどのような期間でしたか？

私が教員になった頃、リハビリブームが到来し、養成校が一気に増えました。その結果、経験の浅い卒業生が大量に現場に出ることになり、多くの職場で教育システムやマネジメント体制が追いついていないという新たな課題に直面しました。同時に、2000年に始まった介護保険制度によって介護施設の数も急増しましたが、こちらも同様にマネジメント不足という問題を抱えていました。この状況を目の当たりにし、リハビリと介護、両分野の人材マネジメントを誰かが担わなければならぬと強く感じ、独学で経営の勉強を始めました。さらに学びを深めるため、教員として働きながら2003年からは佛教大学、2007年からは日本福祉大学の通信教育課程で学び続けました。専門の研修会も少なかった時代でしたので、一般企業向けのビジネスセミナーなどにも積極的に参加していましたね。



リハビリ強化型デイサービスの運営視点

教員をされながら、株式会社メディックプランニングを設立された経緯について教えてください。

独学でマネジメントを学ぶ中で、セミナー開催やコンサルティングの依頼が増えてきたことから、2007年に個人事業として「メディックプランニング」を創業しました。当時は教員の仕事と並行する、今でいう副業のような形でしたね。昼間は教員として働き、夕方から病院で会議、土日はセミナーという生活でした。ありがたいことに依頼は増え続け、やがて教員の給料の倍以上を外部で稼ぐようになり、34歳の時に独立を決意し、2013年には法人化を果たしました。



法人の理念として「リハビリテーションで生涯現役社会をつくる」を掲げていらっしゃいます。この言葉に込めた思いをお聞かせください。

この理念は、2014年に自社でリハビリ特化型デイサービスを立ち上げた際に、スタッフと共有するために作ったものです。障害を負ったり、歳を重ねたりすることでできなくなることが増えて、「自分らしさを諦めない」「その人らしく生きることを支えるのが私たちの仕事だ」という思いを込めています。単に身体機能を回復させるだけでなく、その人らしい人生を支えることこそが、リハビリテーションの本質だと考えています…



続きはQRコードからアクセスしてください → → →